

専門課程（国際ビジネス学科、ホテルブライダル観光学科、グローバル ICT 学科、国際ビジネス研究科、ICT ホテル観光研究科、英語ビジネス学科、国際 ICT 観光学科）

1. 英語教育の向上

本年度は、英語授業強化のため TESOL 或いは応用言語学の修士を取得した 4 名のネイティブ専任教師に加え、3 名のネイティブ非常勤教師によるカリキュラムを編成しました。オーストラリア、アメリカ、南アフリカ、カナダという異なる国の英語やその背景にある文化に接することで、学生の異文化への理解が広がりました。15 レベルの英語授業を実施することにより、学生各自のレベルにあったクラスでスタートできるようにするとともに、半年ごとにレベルアップできる制度を整えていることから、学習意欲を高めています。また、学校内スピーチコンテストを 2 部制のレベル別にし、多くの学生に英語での発表の機会を与えるようにしました。ネイティブ講師とアポイントを取って個別に話せるコンサルテーションアワーを設けており、英語で分からないことも気軽に相談できる環境があります。コロナ禍により対面授業とオンライン授業を併用しました。

2. 各学科の見直しと強化

A. 国際ビジネス学科 貿易・航空ビジネスコース

コロナ禍における航空業界の困難な状況は回復傾向にあり、それが顕著になったのが航空貨物業界の求人でした。それまで募集していなかった航空各社の貨物部門が急に求人を始め、その就職指導をすぐに開始しました。1 年次のカリキュラムに導入してある「IATA ディプロマ基礎」において航空貨物についての知識や実務を身につける授業を設けており、急な入社試験にも対応でき、JAL, ANA の二大航空企業の貨物部門に学生を就職させることができました。

航空貨物業界だけでなく、フォワーディング・国際物流など幅広く貿易関連企業に就職できるようロジスティクス全般に視野を向けて、専門性のある授業構成にしています。また学生が視野を広くもった就職活動ができるよう、航空業界や物流業界などの方にお越しいただき、企業の方による講話を実施いたしました。

令和 2 年度に続き、オンライン授業を取り入れてきましたが、その活用方法も改善できました。試験についてもペーパーとオンラインを状況によって使い分ける工夫もいたしました。特に、IATA ディプロマ試験へのオンライン化については、全国の専門学校として初めての試みでしたが、大きな問題もなく、無事に終了することができました。新しい技術も取り入れながら、今後も貿易・航空従事者の育成について改善・発展していきます。

B. 国際ビジネス学科 英語コミュニケーションコース

卒業生については、例年同様に 2 年間で TOEIC のスコアを 300~400 点伸ばした学生が多数おりました。コースの特性上将来の希望が曖昧な学生がいますが、授業内で自己分析や企業研究を行う時間を多く取り、こまめな面談を通して企業の採用活動開始前から方向性を定めさせるよう努めました。COVID-19 の影響で前年度同様特にサービス業界は厳しい採用状況となりましたが、早期から活動し、有名ホテル等から内定を勝ち取った学生もおりました。その他

観光や鉄道、アパレル、教育、飲食等に加え、公務員試験に合格し市役所に就職した学生もあり、多岐に渡る業界へ卒業生を送り出すことができました。

C. グローバル ICT 学科

入学直後の緊急事態宣言でパソコンを使う実技科目の開始が 6 月までずれ込み、8 月の夏休みが短くなるなど過去にはない状況で学生生活が始まった学年の学生が今年度卒業していきました。

学生達はオンライン併用型の授業を受け入れ、これまでの卒業生と変わりなく検定試験を受験し合格率も例年と同様に高い合格率となりました。また、就職活動においてもオンライン就活が IT を利用する業界では当然の流れとして固定化しましたが、オンライン就職活動への対応などをキャリアディベロップメント内に取り入れたこともあり、就職希望者の卒業時就職率は 100%とすることができました。また、例年以上に大学編入を希望する学生も多くおりましたが、編入希望者についても合格率を 100%にすることができました。

教育課程編成委員会では、DX 化が進む中 With コロナ時代にどのようなスキルを学生に求めるかなどについても貴重な意見を頂き、キャリア支援の授業はもちろん専門科目におけるカリキュラムの反映に活かしています。また、社会人の学び直しとして秋入学において教育訓練給付金を活用した学生が増え、秋入学設定以降で最も多い入学者となり学科全体としても社会人の割合が 2 割を超えてきていることから、高校を卒業して入学してくる学生はもちろん、社会人の方にも満足頂けるカリキュラムにしていくことで教育の質及び学生数それぞれの向上に努めております。

D. ホテルブライダル観光学科

当学科の 3 分野を学べるカリキュラムを構築し、実施しています。

観光分野では、SNS を利用した企業の認知度向上や、コロナ禍により需要が減少した海外市場を埋める国内市場における観光客誘致方法を考える、企業連携授業を行いました。

ブライダル分野においては、コロナによる価値観の変容を反映した新しい形のブライダルの在り方を模索する発表を行い、企業の方から高い評価を頂きました。

ホテル分野では、学習した内容を生かすことができる職場として、都市型ビジネスホテルや地方のリゾートホテルから内定を複数頂くことができました。

今後、インバウンド需要の対応、サービス内容の発信に不可欠な IT スキルの向上に加え、マーケット需要の把握、それに基づくビジネスモデルを新たに生み出すことのできるカリキュラム構築をと考えております。

E. 英語ビジネス学科

学力やバックグラウンドが多様で、家庭的な事情がある学生が多く、同時に自律性が強く求められる学科ですが、それぞれの状況やニーズを個別に把握し、家庭とも綿密に連携を取るなど、丁寧で適切な指導ができ、結果にもつながった一年だったと評価しています。コロナ禍にあるためオンライン授業も多くなりましたが、それを前提として、学生同士のコミュニケーションを一定量確保する工夫も取り入れました。

F. 国際ビジネス研究科

2 学科あった研究科を 1 本化しましたが、コースを 3 つ（貿易ビジネスコース、英語資格コ

ース、ICT・観光コース)に分けているため、それぞれの専門性を活かした指導・就職ができました。大学を休学して研究科で学んだ学生もいますが、コースに応じた専門性を身に付けて大学へ戻ることができました。大学で学んだことに加えて専門学校で取得した資格や実践力は、就職活動・就職後の業務に役立ちます。「大学×専門学校」という新たな価値の創造も研究科の魅力の一つと捉え、今後も指導していきます。ICT 観光コースにおいては、コロナ禍ではありませんが、日本での就職を実現したいという学生が内定を取れた形で卒業することができました。学習面だけでなくキャリアサポートの拡充を次年度も行います。

G. 国際 ICT 観光学科

観光と IT を学べる強みを生かしたコース作りをしております。資格取得意欲を高め、IT 分野、観光分野とそれぞれ目標資格を設定したところ、意欲的に授業に取り組む学生が増えてきて、「MOS」や「サービス接客検定」の合格者も出すことができました。1年次の学生は観光と IT の基礎を学び、2年次にどちらの科目を中心として学びたいのか早い段階から面談を行い確認し、学生の目的に合わせた授業を提供できるようにしました。就職においては、インターンシップ制度を活かし、インターンシップ先のホテル業界への就職を実現いたしました。

3. 留学事業

昨年同様、留学ジャーナルと EF Education First との提携をしております。2021 年度はコロナ禍でしたが、留学に行った在校生は 2 名おります。グローバル ICT 学科と教育連携をしているマイステージという企業を通じ、1 名はオーストラリアに 3 ヶ月、もう 1 名は 6 ヶ月間留学しました。常勤の留学コーディネーターが、留学について気軽に相談できる環境を整えています。語学留学の単位認定のために定期的なレポート提出に加え、留学後にレポートを提出させることで留学の様子が分かるようにしています。

4. 定通教育推薦制度

前年度に続き、神奈川県高等学校定通教育振興会に加盟している学校を卒業見込みの学生で、出願時の評定平均が 3.0 以上かつ欠席日数が 30 日以内の者に、入学金半額と 10 単位分の減免という特別減免制度を適用しました。今年度は前年度を上回る 9 名の学生が利用し、経済的理由で進学を諦めかけていた学生に希望を与えることができました。

5. 就職への取り組み

前年度のコロナ禍の影響から採用を控えていた企業も徐々に採用を再開しました。学生もオンラインでの就職活動に慣れてきて、以前のように 3 月には活動に取り組み始めました。貿易・航空ビジネスコース、グローバル ICT 学科は本年度も堅調で、教育連携企業など関係を保ち続けている企業を中心に採用が決まりました。また新しい企業に挑戦する学生も多く活動した学生はほぼ内定を得ることができ、学生の努力も報われた年だったと思います。

サービス業界、特に空港関係はまだ再開の見込みが立たず、採用を再開したホテル業界も採用数は少なく、選考基準も厳しくなっていると感じました。それでもホテルブライダル観光学科、英語コミュニケーションコースの学生は視野を広げ、粘り強く活動を続けた結果、活動していた学生の 90% は内定を得て卒業することができました。特にホテルブライダル観光学科の学生はほぼ関連業種での就職を決めました。また英語コミュニケーションコースでは学校と人材紹介会社との連携で紹介を受けて決定した者、介護系事務職で内定を得たのち大学編入に切り替え編入した者、必要資格を取るため就活を 2 年後期までせず、その間に市役所の 2 次募集を見つけ採用された学生など、新卒の就職活動のパラダイムシフトを実感するケースも多く見受けられました。

ただ採用現場では留学生の必要性が低くなっていると認識があり、能力を見ず、留学生であることを理由に不利な扱いを受けたケースが少なからずあったのが残念でした。逆に技能実習生の不足を留学生で埋めようとするような求人が目につきました。留学生の就職先開拓が再度、課題となった年でした。

6. 主な就職先：

A.貿易、空港関連

(株)ANA Cargo、(株)JAL カーゴサービス、セイノースーパーエクスプレス(株)、(株)アルプス物流、(株)近鉄コスモス、コウノイケ・エアポートサービス(株)、第一港運(株)、(株)ペガサスグローバルエクスプレス、鈴与通関(株)、(株)日本トラフィックサービス、NAX Japan(株)、(株)三協、インターナショナルエクスプレス(株)、トナミ国際物流(株)、ノットグローバルホールディングス株式会社、(株)関通、(株)A.I.F.、Maersk Service & Logistics Japan K.K.、神奈川大学 経営学部編入 他

B.ホテル、観光関連

共立メンテナンス、アパホテル、ANA インターコンチネンタル東京、星野リゾート、オートバックスセブン、TBC グループ、玉名観光協会 他

C.IT 関連

株式会社日立ドキュメントソリューションズ、株式会社フロンティアポート、株式会社フォーイット、田辺薬局株式会社、日本朗裕株式会社、株式会社カタリストワークス、GH ソリューション株式会社、株式会社バイタリフィ、株式会社 CHET Group、神奈川大学国際日本学部 他

7. 全国専門学校英語スピーチコンテストで最優秀賞受賞

2021 年度第 39 回全国専門学校スピーチコンテストは、「入賞」で、事実上 3 位～5 位の評価でした。入学以来、着実に英語力を上げていた学生でしたが、コミュニケーション力や表現力に課題があったため、英語の発音よりもむしろ、表情や声色、ジェスチャーなどの指導に時間をかけました。訴えたい主張が弱かったので、スピーチ内容だけで言えば入賞には届かない可能性が高いと感じていましたが、英語力と自然な表現力が高く評価された結果の入賞だと捉えています。

8. 仕事のまなび場参加者数

神奈川県専門学校各種学校協会と県内高校との連携で例年夏に行っています。

2021 年度は 8 月 11 日と 12 日、緊急事態宣言下での実施となりました。当日を目前に高校単位でのキャンセルも発生しましたが、感染拡大対策を万全に行い、参加した高校生の満足度は高いものでした。参加者数及び参加校は以下の通りです。

英語：13 名（申込 19 名） ホテル：16 名（申込 20 名） IT：5 名（申込 15 名）

(参加校)星槎高等学校、日本女子大学付属高等学校、県立伊勢原高等学校、県立金沢総合高等学校、県立平塚湘風高等学校、県立深沢高等学校、県立神奈川総合産業高等学校、県立金沢総合高等学校、県立釜利谷高等学校、県立座間総合高等学校、県立高浜高等学校

専門課程（ビジネス日本語学科、日本語学科・日本語研究科）

1. 各学科の見直しと強化

A. ビジネス日本語学科

（教科指導）

今年度もコロナ感染拡大の状況に応じて、対面授業・ハイブリッド授業・オンライン授業を行いました。オンライン授業の受講に学生も慣れてきたものの、やはり、集中して学習に取り組むことは難しいため、授業内容やその進め方の工夫を凝らし、日本語・ビジネス日本語・専門的科目における語学力・専門的知識の向上を目指しました。そして、JLPT だけでなく、BJT ビジネス日本語能力テストやビジネス能力検定、ビジネス文書、秘書検定などの資格取得を目指しました。

また、今年度もハイブリッドの形でしたが、各科目の総合的な結集として、卒業制作発表会を実施することができました。今年度は、「飲食業以外の起業」をテーマにして取り組みました。企業様にも、ご来校またはオンラインでご出席いただき、評価をいただくことができました。1年生も次年度の卒業制作発表会につなげるため、グループによる企業研究発表をクラス内で実施しました。

（就職指導）

本年度はコロナ禍で卒業予定者の就職が厳しい状況の見通しでしたが、最終的にはほぼ希望者全員が日本で就職することができました。例年は、本国ですでに学士取得者や就労経験者は早い時期に企業から内定をもらうことが多く、逆に学士がなく、卒業後専門士取得で就職活動を行なっている者は苦勞することが多い傾向でした。しかし、コロナ禍が続く中、就職を希望する学生には緊張感が生まれ、早め早めに指導し、行動に移ったことによって実を結んだと思います。

B. 日本語学科・日本語研究科

（教科指導）

上級は今期の上級学習者は来日1年から2年になる学生で、コロナの影響のなかで入国できた者たちで、勉強に真剣に取り組み、レベルも高かった。既にN1に合格している学生も数名いたため、作文やスピーチ、プレゼンテーションなど、個人の能力に合わせて力を発揮できる学習を積極的に取り入れ、モチベーションを下げずに進められた。また、アクティブラーニングを取り入れ、学生同士で学習内容を確認し合う時間を設けた。この方法は、異文化コミュニケーション能力を上げ、クラスメートの親睦にもつながった。卒業前の一大イベントとして、上級レベル恒例のプロジェクトワークに取り組み、学生自ら企画・運営し、音楽や演劇、バラエティーなどの発表を、先生方や学生たちに披露した。グループワークの難しさと楽しさをしっかり体感して、大変素晴らしいものを作り上げたと思う。

中上級は、中級に比べて新出語彙が非常に多いにもかかわらず、テキスト付属の語彙リストは漢字への着目が不十分で解説も無く、非漢字圏の学生にとっては漢字学習の負荷が重くなっていました。そこで、漢字の字形や読み方のリストを作成し、学生自身が自律的に学習できるよう整備しました。また漢字テストの出題範囲を絞ることで学生が一度に覚える範囲を重点化し、定着率向上を図りました。

中級は、新しい教科書を導入し、それに対応したまとめテスト、漢字テスト、定期テストの作成をしました。副教材は宿題と復習に使用することに決め、フィードバックしながら進めていきました。

作文と会話は教科書の内容に沿ったものにテーマを絞り実施しました。

3か月毎に、授業の進め方を検討し、より効率よく進められるように修正しました。

初級は、コロナの影響で留学生が新規で入国できなくなり、その分家族滞在の外国人子息や主婦、日本人配偶者が入学してくる例が出てきた。こういった学生の特徴として、入国初期にボランティア教室等で入門レベルや日常語を学び、あとは生活しながら身に付けた日本語を頻繁に使っているため、意志疎通はできるが、文法の基礎が入っておらず、上達につながらないという共通点がある。本人らも育児で学校との連絡に困難を感じていたり、きちんとした就職ができないなど、生活に支障を抱えて入学を決めた事情があった。その背景を踏まえたうえで、教科書以外の日々の生活での疑問にも応えながら進めていった。

キャリアアップ部事業（附帯事業）

1. 失業者向け再就職支援 専門人材育成コースの実施

神奈川県立東部総合職業技術校二俣川支所より委託を受け、正社員就職を希望する非正規雇用労働者等を対象とした『専門人材育成コース』を実施しております。

■令和2年度4月生（令和2年4月～令和4年3月修了）

国際ビジネス学科 貿易・航空ビジネスコース	修了2名	グローバルICT学科	修了8名
ホテルブライダル観光学科	修了1名		

■令和3年度4月生（令和3年4月～令和5年3月修了見込）

国際ビジネス学科 貿易・航空ビジネスコース	在籍8名	グローバルICT学科	在籍8名
ホテルブライダル観光学科	在籍1名		

2. キャリアアップ講座

キャリアカレッジの開講授業は学習効果が高い対面形式を基本としつつ、感染症の拡大状況や受講者の健康状態・希望に合わせ、オンラインも併用した授業を行ってきました。また、昨年に続きウェブサイトのブラッシュアップを行いました。

- ・時間帯、曜日ごとに講座を検索できる
- ・受講料割引制度を見ることができる
- ・講座パンフレットをPDFでダウンロードできる
- ・オンライン上で講座申込ができる
- ・昼間部の講座の一部をキャリアカレッジ向けに新規公開